

第9回韓国スタディツアー報告書

2015

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「2015年度青少年ユネスコ活動助成事業」



杉並ユネスコ協会

はじめに

杉並ユネスコ協会では青年部主体の「韓国スタディツアー」を2006年以降、ほぼ毎年実施しています。その目的は、日本にとっての韓国を「近くて遠い国」から「近くて近い国」に変えることにあります。すなわち、両国は飛行機で約2時間という地理的に近い関係にありながら、いわゆる「歴史問題」などによって相互の交流が十分に行われてきませんでした。互いに理解を深め交流を活発化させるためには、まずは相手の国について知る必要があります。本ツアーは当協会の青年が自ら韓国を訪れ、韓国の歴史と文化を直接見聞きすることで、隣国である韓国について理解を深めることを主要な目的としています。

今回で9回目となる本ツアーでは、これまで一貫して2つのテーマを掲げてきました。1つは「異文化理解」、もう1つは「平和学習」です。「異文化理解」とは、韓国の伝統文化や若者文化に直接触れることで、韓国人の価値観（ものの見方・考え方）を理解することを指します。「平和学習」とは、日本と韓国あるいは朝鮮戦争で起こった戦争について学び、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考えることを指します。今回のツアーでは上記2つのテーマに沿って、ソウル近郊にある以下の施設、史跡および団体を訪問しました。

■「異文化理解」

1. 景福宮：14世紀末に建設された朝鮮王朝の宮殿
2. 国立民俗博物館：韓国の伝統的な生活様式などが展示されている博物館
3. 韓国ユネスコ協会連盟：韓国青年との交流プログラム（ディスカッション）を実施

■「平和学習」

1. 西大門刑務所歴史館：日韓併合の時期に日本軍が韓国人政治犯を収容した施設
2. 板門店：朝鮮戦争の休戦協定が締結された場所であり、現在も「共同警備区域」に指定

本報告書は2015年12月末に実施した「第9回韓国スタディツアー」の内容を記したものです。全体は3部構成となっており、第1部では上記の訪問先の紹介、第2部ではツアー後に国内で実施した「青少年ワークショップ」の様子、第3部では参加者の感想が書かれています。本報告書を通じて、日韓の文化交流を促進しようとする当協会の取り組みについてご関心を寄せていただければ幸いです。なお、本ツアーは公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「2015年度青少年ユネスコ活動助成」のご支援をいただいて実施しました。この場を借りて、同連盟に心よりお礼申し上げます。

岩野 智

目 次

はじめに	
ツアーの概要	1
<u>1 訪問先の紹介</u>	
(1) 景福宮	3
(2) 国立民俗博物館	5
(3) 韓国青年とのディスカッション	7
(4) 西大門刑務所歴史館	11
(5) 板門店	13
<u>2 青少年ワークショップ</u>	
(1) ワークショップの内容	17
(2) 来場者の感想	18
<u>3 参加者の感想</u>	
(1) 今井 美佳	20
(2) プラント 蛍	21
(3) 八尾 成美	22
(4) 河合 城太郎	23
(5) 小島 えりか	24
(6) 福田 真子	26
(7) 板倉 徳枝	27
(8) 岩野 智	28
写真	29
あとがき	30

ツアーの概要

■滞在先・期間

大韓民国ソウル特別市

2015年12月27日(日)～30日(水)

■宿泊先

ベストウェスタン・ニューソウル・ホテル

(Best Western New Seoul Hotel)

ソウル特別市 中区 世宗大路 22 キル 16



■行程

12月27日(日)	12月28日(月)	12月29日(火)	12月30日(水)
11:45 成田空港 第1ターミナル 集合	9:50 ユネスコビル着	8:20 ロッテホテル着	6:30 ホテル発 (HIS 送迎バス)
13:55～16:35 大韓航空 KE704 便	10:00～11:30 韓国青年とのディスカッション	8:30～14:30 板門店バスツアー (統一大橋検問所、	8:00 仁川空港着
17:30 仁川空港発 (HIS 送迎バス)	11:50～13:00 昼食 (韓国ユネスコ協会連盟の接待)	国連キャンプボニファス、板門店 (平和の家、軍事停戦委員会本会議場、帰らざる橋、自由の家、ポプラ事件場所、板門閣)、臨津閣公園)	10:10～12:30 大韓航空 KE703 便
18:30 ホテル着	13:15～15:00 韓国青年とのディスカッション (続き)	15:00～17:00 西大門刑務所歴史館	13:30 成田空港にて解散
19:00～20:30 明洞散策、夕食	15:30～17:00 景福宮・国立民俗博物館	18:00～21:00 夕食、ソウル駅周辺散策	
21:00～22:00 ミーティング (韓国ユネスコ協会連盟の訪問準備)	17:30～20:30 仁寺洞散策、夕食、東大門市場など見学	21:30～22:00 ミーティング	
	21:00～21:30 ミーティング		

■参加者

青年部	今井 美佳	青年部	河合 城太郎
青年部	小島 えりか	青年部	福田 真子
青年部	プラント 蛍	青年部	八尾 成美
理事	板倉 徳枝	理事	岩野 智

■会計報告

決算<支出>

支出項目	支出内訳 (単価×個数) *	金額
<謝金>	韓国ユネスコ協会連盟への土産 (菓子) ¥2,700×1 韓国青年への土産 (菓子・袋) ¥1,709×1+¥648×1	¥5,057
<旅費>	航空券・宿泊代 ¥631,760×1 (8名分) 板門店バスツアー ¥61,600×1 (8名分)	¥693,360
<印刷製本費>	コピー用紙 ¥1,750×1 インクカートリッジ ¥2,997×1	¥4,747
<雑費>	拝観料：景福宮 ¥1,488×1 (8名分) 西大門刑務所歴史館 ¥1,860×1 (8名分) 交通費 (地下鉄) ¥3,336 (8名分、4日間合計) 食費 ¥47,284 (8名分、4日間合計)	¥53,968
合計		¥757,132

*為替レートは1ウォン=0.103円 (当時) として計算。

決算<収入>

	内 訳	金額
自己資金	会費等	¥2,132
参加費収入	¥75,000×7名 (青年部6名、理事1名) ¥80,000×1名 (理事1名 ※1人部屋代金)	¥605,000
日本ユネスコ協会連盟助成金	¥150,000×1	¥150,000
合計		¥757,132



景福宮（キョンボックン）とは、李氏朝鮮王朝時代（1392-1910年）の王宮であり、王の政務の場、そして生活の場として知られています。

韓国の数ある王宮の中でも、これほど壮大な規模を誇るものは他になく、韓国を代表する建物として有名です。建物だけでなく、四季折々の美しい景色も楽しめることから、観光地としても有名です。

実はこの景福宮は、1910年に韓国が大日本帝国に併合された後、日本の朝鮮総督府の庁舎が置かれるとともに、元々存在した景福宮の敷地内のほとんどの建物が破却されてしまいました。現在もまだ建物の復元作業が続いています。



出所：http://www.kampoo.com/travel/seoul/jongro/gbg/gbg_guide_map.htm

1 訪問先の紹介

景福宮は大きく4つの建物からなります。第1に「光化門（クアンファムン）」、第2に「興礼門（フンレムン）」、第3に「勤政門（クンジョンムン）」、そして第4に「勤政殿（クンジョンジョン）」です。それらの中で、ここでは光化門と勤政殿について説明します。

景福宮の一番手前にあるのが、「光化門」と呼ばれる門です。景福宮の正門として1395年に創建され、1592年の文禄の役と1950年の朝鮮戦争により二度焼失しました。1965年に鉄筋コンクリートで復元され、当時のもとの位置に戻すために約4年の復元工事を経て、2010年に完成しました（右の写真）。



次に、国王が実際に政治を行った建物を「勤政殿」と言います。私たちが訪れた時期は真冬だったため建物の中はとても寒く、本当にこのような寒いところで王は政治を行っていたのかと、本当に尊敬します。それくらい寒かったです。勤政殿の中には日の光がほとんど入らないため、当時はどのようにして暖をとっていたのか気になります。



この「勤政殿」の名前の由来は、「民を勤勉に治める」と言われています。景福宮の中でも最も雄大な建物で、王座の後ろの屏風に描かれた「日月五峰図」（左下の写真）は、2007年1月に発行された一万ウォン紙幣の絵柄としても採用されています。



勤政殿の内部には中央に王座があり、その横に臣下たちの席があります。そして、この勤政殿は王の政治の場だけでなく、国の法務や外国からの使者を迎える場としての役割など、幅広く使われていました。日本とは違い、国王は王座に座るようです。日本は例えば戦国時代では、国王（大名）でも座布団の上に座ることが多いようです。そこは日本とは文化的に違う点だと思いました。

最後に、景福宮では日本語のアナウンスが流れていました。私はこれまで、それほど日本人は韓国に旅行に行っているというイメージがなかったため、アナウンスの中に日本語が入っていることに少し驚きました。（河合 城太郎）

〈参考・引用 URL〉

コネスト http://www.konest.com/contents/spot_mise_detail.html?id=265



国立民俗博物館

国立民俗博物館は、景福寺の中にある博物館で、仏国寺の青雲橋と白雲橋、法住寺や金山寺、華嚴寺など、韓国で有名な寺院の建築様式を応用して、1972年に建てられたものです。展示室は一階にあり、上の階は全て保管庫として使われています。第一展示室は韓国の歴史、第二展示室は韓国の文化、第三展示室は韓国人の一生というテーマで成り立っています。

今回のスタディツアーの目的である、韓国の歴史と文化を学ぶにはとても良い場所でした。

1. 韓国の歴史

第一展示室では、韓国史を紹介しています。模型などを使って当時の様子が分かりやすく展示されていました。旧石器時代から三国時代、そして朝鮮時代から現在に至るまでの歴史が細かく学べるつくりになっていました。

しかし、1910年から1945年の日本統治時代に関する展示が極端に少なかったことに気が付きました。博物館の方に聞くと、日本との外交上の関係を考慮してのことではないかとおっしゃっていました。



▲朝鮮時代の様子



▲終戦後の生活の展示

2. 韓国人の生活

韓国人の生活についての展示がある第二展示室。ここでは、キムチ作りの様子や、一年を通しての韓国人の農耕の様子などが展示されていました。春は豊作祈願のためのお祭り、夏は麻で作られた薄い生地ので暑さに耐え、秋は農作ができない冬に向けての貯蓄、そして冬には家族全員でキムチを漬けて食べます。こうした韓国人の季節に対応していく術が学べました。

1 訪問先の紹介



▲キムチを入れる甕（かめ）



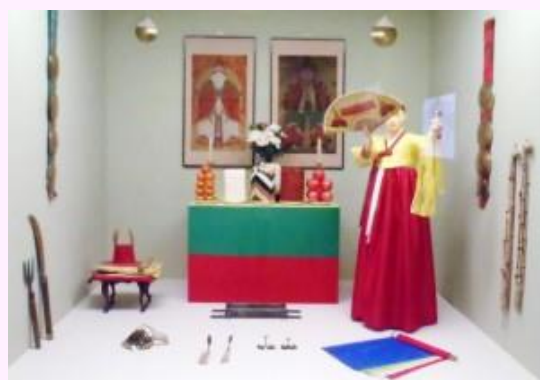
▲キムチ作りの様子

3. 韓国人の一生

第三展示室では、「両班（ヤンバン）」と呼ばれる朝鮮時代の上流階級が行っていた儀式の展示があります。儒教と深い繋がりを持っていた韓国人は、人生の中の大切な時に祈りを捧げる文化がありました。出生、教育、冠礼、婚姻、家族、出世、風流、治療、還暦、喪礼、祭祀の11種類の儀式を、模型とともに紹介しています。出生時に赤ちゃんを投げるなどといった風習や、結婚時の服装など、日本とは大きく異なる伝統的な儀式の数々を学びました。



▲出生時の儀式



▲韓国人の正装

韓国の文化や歴史を学んで、日本と似ている点もある一方で異なる点もあり、興味深かったです。昔の農耕の仕方などは日本と似たものがあると感じましたが、第三展示室で学んだ伝統的儀式は、儒教が根付いた韓国ならではの文化だなと思いました。韓国人が一生の内にもどのような儀式を経験するのかといったことはなかなか知ることはできないため、勉強になりました。文化を知ることで、韓国を前よりもっと身近に感じられたような気がします。

（福田 真子）

韓国青年とのディスカッション

ツアー2日目に韓国ユネスコ協会連盟のご協力により、日本と韓国の青年による「日韓両文化の比較」をテーマとするディスカッションを行いました。そこで日本と韓国の文化について意見交換をし、お互いの国について理解し合いました。参加していただいた韓国人の方々は皆日本語を

話すことができ、日本語を勉強ではなく遊びの感覚で楽しく学んでいるとのことでした。また、日本の文化にも強い興味を持っているとおっしゃっていました。



1. ディスカッションの参加者と全体の流れ

参加者は日本側8名（高校生6名、理事2名）、韓国側3名（全員高校生）の計11名でした。最初から参加して下さったソン・ヘウォンさん、そしてハン・ユジンさんは道が混んでいてバスが進まなかったと遅れての参加でしたが、お二人から韓国についてたくさん教えていただきました。また、去年に引き続き午後からの参加ではありましたが、カン・ミンジさんも参加して下さいました。ディスカッションは明洞（ミョンドン）にあるユネスコビル内のカフェテリアで行いました。予定では午前中のみのはずでしたが、議論が盛り上がったため、美味しい昼食を挟んで、近くの喫茶店に場所を移して話し合いの続きを行いました。

韓国側参加者		
ソン・ヘウォン	高校生	女性
ハン・ユジン	高校生	女性
カン・ミンジ	高校生	女性



▲ユネスコビル内のカフェテリアでのディスカッション

ディスカッションの流れと内容	
10:00 ~ 11:30	前半（カフェテリア） ①クリスマス、お正月の過ごし方 ②最近のキムチ事情 ③韓国の娯楽 ④人気のスポーツ ⑤日本人（特に若者）に対するイメージ
11:50 ~ 13:00	昼食
13:15 ~ 15:00	後半（近くの喫茶店） ⑥厳しい上下関係 ⑦社会での女性の立場 ⑧伝統的なマナー ⑨床または椅子の生活 ⑩若者の政治への関心 ⑪韓国と北朝鮮との関係

2. ディスカッションの主な内容

■クリスマス、お正月の過ごし方

前半は、韓国と日本の庶民の生活について議論しました。時期がクリスマス直後だったこともあり、街中には至る所でクリスマスオーナメントが飾られていました。日本では12月25日が過ぎると、すぐにツリーなどが片付けられてしまいます。一方、韓国では宗教を持っている人が全体の50%、そのうちの70%がキリスト教だそうです。クリスマスは家族と楽しく過ごすようですが、最近は家族より恋人と過ごす人が増えているようです。しかし日本とは違い、友達同士などでパーティーはしないそうで驚きました。また正月は、新暦の正月（1月1日）よりも旧暦の正月（旧正月。今年は2月8日）を祝うそうです。お年玉はもらうそうですが、日本よりも額は少なく10,000円くらいだと言っていました。さらに、日本ではお年玉で福袋を買うという話をしたところ、福袋というものがあることに対して驚いていました。

■最近のキムチ事情

次に、キムチについて聞きました。キムチは韓国の伝統的な漬物です。日本にも奈良漬や千枚漬といった漬物は、スーパーなどで買う人が増えていますが、韓国では今でも家で漬けているようです。家族で漬けている家庭もあれば、母親が漬けている家庭もある中で、スーパーなどで買う人も多くなってきているそうです。キムチは庭に埋めて保管するのが昔ながらのやり方だそうです。マンションなど庭がない家庭が増えて、今では普通の冷蔵庫に加え、キムチ専用の「キムチ冷蔵庫」があると言っていました。地方に行くと昔ながらの庭に埋める方法を行っているところもあるそうですが、現在では少なくなっているとのことでした。

■韓国の娯楽・スポーツ

韓国の娯楽やスポーツについては、まず韓国にはカジノがあるそうで、大学生になり19歳の誕生日が過ぎると、遊ぶことができるそうです。しかし日本に比べて娯楽店は少ないとのことで、パチンコ・スロットのお店がないと言われて驚きました。スポーツはやはりフィギュアスケートが人気あると言っていました。しかし最近はキム・ヨナ選手が引退して下火になっているようです。サッカーや野球も人気があり、特にW杯の時に注目されるそうです。韓国にも日本の甲子園のような高校生の大会があります。また、「シルム」と呼ばれる相撲に似た国技があるそうです。

■ 韓国の社会的慣習・マナー

後半は、主に韓国人の習慣や国が置かれている状況について議論しました。韓国は儒教の文化が根強く残っているため、日本よりも上下関係が厳しいと言われていています。そのため、初めて会った人と挨拶を交わすときには必ず年齢を聞くそうです。女性に対して聞くのは失礼にあたる日本と大きく違い、私たちは驚きました。年齢を聞くことによって上下関係がはっきりとし、敬語などの言葉遣いが決まると言っていました。また、初対面の人にも敬語を使うそうです。食事の際も年上の方が先に食べ始め、また電話も年上の方が先に切ります。食事に行ったとき、代金は年上の方が支払います。そして、お皿は持ち上げずにスプーンを使って食べます。私たちは4日間韓国に滞在していて、お茶碗などを持ち上げない文化には慣れていなかったため、持ち上げて食べてしまいました。そのような経験も異文化理解の一つだと感じました。さらに、韓国では男女で仕事の給料が違います。日本では男女平等が問題になっていますが、韓国でも問題になっているそうです。伝統的に女性より男性優先の社会（特にお金に関して）だそうです。しかし、最近では社会に進出する女性が増えて、専業主婦が減ってきているとのことでした。

■ 韓国の生活様式

生活様式として、韓国は床の生活を昔からしています。寒い「オンドル」という床暖房が昔から使われてきました。しかし現代では洋風化が進み、椅子での生活に変わってきているそうです。そのような中、飲食店ではまだ座敷タイプが残っているそうです。しかし掘りごたつのある店は日本料理屋くらいであると言っていました。掘りごたつの存在すら知らない人もいるようです。日本で床に座るときに座布団を敷くという文化があると伝えたところ、韓国の青年たちは驚いていました。

■ 韓国と北朝鮮の関係

最後は南北朝鮮の関係について話しました。日本人は同じ民族が2つの国に分かれてしまうという経験がないため、議論をするというよりも南北問題の現状を聞くという形になってしまいましたが、良い経験になったと思います。北朝鮮と韓国の統一を望む人は韓国人の50%くらいだそうです。北朝鮮の金正恩氏は許せないという意見もありました。そのような中、いつかは統一しないといけませんが、それがいつになるかが問題で、平和的に統一するための準備をしておくべきだという意見も聞くことができました。

(文：今井 美佳)

3. ディスカッションの感想

隣の国、韓国の青年とたくさん話をしましたが、隣の国といってもやはり文化は全然違うのだなと感じました。そのような中でも、似ているところや真似ているところがあり、身近な国であるということも実感しました。過去に日本が韓国に対して行ったことを理解し受け止め、互いの文化を肌身で感じて受け入れ、隣の国として仲良くしていくべきであると感じました。そのためには「未来の時代」を担っている青年同士の付き合いが重要だと思いました。また、あらゆる国に対して偏見を持たずに接していくことも大切だと感じました。韓国の青年とは今回のディスカッションから友人関係へと発展し、国の関係を良くするための一つのきっかけにしていければいいなと思いました。(今井 美佳)

今回のディスカッションでは、いくつか印象に残った話題があります。

まず、韓国の高校生はほとんど毎日勉強するそうです。学校が終わったあとも残って勉強する生徒がほとんどだと聞き、私はとても驚きました。韓国で必死に勉強している間、私たちは早く帰りたいとごね、学校が終わったら家に帰ってゴロゴロしたり遊んだりして、本当に恥ずかしく感じます。世界には勉強したくても勉強できない子供たちがいます。これからはもっとしっかり勉強したいと思いました。また韓国では部活動がほとんど無いそうです。日本には部活動がたくさんあって羨ましいと言われて、改めて日本は本当に恵まれている国だなと実感しました。

次に、韓国にはキムチ冷蔵庫というものがあると聞き、私はとても驚きました。韓国人は自分の国に伝わる伝統的な食べ物をとても大事にしています。とても素晴らしいことだと思いました。日本では和食が世界遺産に登録されたにも関わらず、和食をあまり食べなくなっています。それはとても悲しいことです。日本人は自分たちがどれほど恵まれているか、もっと実感しなければいけないと思います。

最後に、韓国ではほとんどの人がマンションに住んでいるそうです。日本ではマンションに住んでいる人は少ないわけではありませんが、韓国ほどではありません。韓国人の多くがマンションに住んでおり、逆に一軒家に住んでいる人はほとんどいないと聞いて、とても驚きました。

私は今回のディスカッションを通じて実際に現地の人々の意見を聞くことができ、とても感激しています。相手の意見を直接聞くことができ、楽しく話し合うことができました。今回このような場を設けてくださり、ありがとうございました。おかげで貴重な時間を過ごすことができました。韓国の青年たちとも仲良くなることができ良かったです。ミンちゃん(カン・ミンジさん)にも再会することができ、とても楽しかったです。(プラント 蛭)



西大門刑務所歴史館

独立門(トンニンムン)駅から降りてすぐの西大門(ソデムン)独立公園内にある西大門刑務所。約100年前の戦時中に建てられたこの建物は、マイナーな観光地にもかかわらず、戦時中の日本の植民地支配の歴史が詰まった貴重な場所です。日本による日化政策に抵抗した独立運動家たちが収容され、労働、拷問などの苦役を強いられた様子が展示されています。

西大門刑務所は1908年に「京城監獄」として建てられ、最大3200人もの韓国人が収容されていました。現在では歴史館として、拘置監獄や獄舎、工場などが立ち並び、内部の様子が細部まで復元されています。1998年には国家史跡に指定されました。地下鉄で数駅離れた町では、日本人を見かけることも珍しくありませんが、ここでは日本人どころか人が全くいない上に、どこか冷たく重たい空気が流れているように感じました。

展示館(右図の①)では日本の侵略の様子や、民族の抵抗の様子、独立運動家の功績、日本が行ってきたとされる拷問の様子(下の写真)が展示されています。韓国の子供たちが社会科見学で訪れることもあるというこの場所に、これほどまで過激な展示をすることに驚きました。



日本が行ったことは事実かもしれませんが、国交の改善には必ずしも良い影響を与えないだろうと思います。また、展示が進むにつれて、最初は日本語、英語、ハングルと3カ国語



で展示の説明が表記されていましたが、次第にハングルのみの展示となっていました。これでは、日本人だけでなく他の国から訪れた観光客でさえ内容を理解することはできません。誰に、何を伝えるためにこの歴史館をつくったのかという疑問が生まれました。

1 訪問先の紹介

2015年8月に鳩山元首相が訪れ、土下座謝罪をしたことでも話題となった追悼碑(前頁の図の③)には犠牲者の名が刻みこまれています。その近くには裁判所兼死刑場があり、そこには2本のポプラの木が植えられています(同図の④)。それは、同じ環境で育ったのにも関わらず、志半ばで命を失わなければならなかった独立運動家たちの無念が伝わり、死刑場に近い方の木の育ちが悪くなったと言われていました。「痛哭のポプラの木」という名前がそれをもの語っています。



私たちが見学しているとき、同じくらいのペースで見学している50人くらいの韓国人の青年たちの集団がいました。日韓の歴史問題における重要な場所のひとつであるため、私たちは彼らに対し恐怖を感じていました。お土産屋さんに入ると彼らも同じタイミングで入ってきたため、自分たちが日本人であることを始めに述べた上で、彼らにいくつか質問しました。私は嫌みを言われてもしょうがないと覚悟して話しかけましたが、驚いたことに彼らは日本語を話すことができ、日本人がここに来ることは素晴らしいことだと話してくれました。



見学中に私たち日本人をチラチラと見ていたことが気になりましたが、それは日本人が自分からはできるだけ関わりたくないであろう場所に来ているという、物珍しさからくるものだったと説明してくれました。すべての人がこのような意見を持っている訳ではないことは分かっていますが、同年代の韓国人の生の声を聞くことができ、良い経験になりました。

日本人が戦時中に行ってしまったことを変えることはできませんが、その事実に対してどう向き合っていくのかということは、私たちができることのひとつであると思います。自分の目を見たことを忘れずに、この歴史館の存在を無駄にしないようにしていきたいと思っています。(八尾 成美)

板門店 ～臨津閣駅、軍事停戦会議場、非武装地帯～



1. 板門店とは

板門店（パンムンジョム）とは、1953年の朝鮮戦争休戦協定で定められた休戦ライン上において、南北の会談の場所として設定された「共同警備区域」の別名であり、韓国と北朝鮮どちらの軍の管轄下にも所属していません。韓国と北朝鮮は現在国交を絶っており、互いの国への行き来は原則禁じられています。今回、私たちはツアー3日目となる12月29日に板門店に向かいました。

2. 朝鮮半島 分断の歴史

韓国と北朝鮮の分断の歴史はおよそ100年前の大日本帝国による韓国併合にまでさかのぼります。日清戦争に勝利した日本は、下関条約において清に多額の賠償金とともに、当時清の冊封下（属国として従わせること）にあった李氏朝鮮の独立を認めさせました。この条約により大日本帝国の朝鮮国内（その後大韓帝国に改称）での影響力が強まり、三度にわたる日韓協約で保護国化がすすめられ、ついに1910年、日韓併合が決定されました。

しかし、その後の第二次世界大戦において1945年に日本は敗戦国となり、それまで日本の統治下にあった地域は連合国の統治下に置かれることになりました。中でも朝鮮半島にはアメリカ軍が南から、ソ連軍が北から進駐し、北緯38度線を境に分割して占領しました。当時は行き来が許されていた38度線ですが、冷戦の影響で1946年に突如渡航禁止になります。この時点から、現在に続く離散家族の問題が発生しました。そのまま1948年、38度線以北にはソビエト連邦の影響を受けた社会主義の朝鮮民主主義人民共和国が、以南にはアメリカの影響を受けた大韓民国がそれぞれ成立しました。朝鮮半島にお互いに自分たちこそが朝鮮半島の正式な統治国であると主張する国が二つ建国されたことになります。

そのような中、1950年、北朝鮮軍は突如大韓民国への侵攻を開始します。朝鮮戦争の開戦です。突然の攻撃に対し韓国側は素早い対応ができず、1カ月足らずで首都ソウルは占領

1 訪問先の紹介

されてしまいます。朝鮮半島は一部を残して北朝鮮軍の下に置かれました。

この状況を見たアメリカは国際連合に国連軍の出動を要請、すぐさまアメリカ軍の日本占領部隊を中心とした多国籍軍が組織され、北朝鮮軍を北へ押し戻します。窮地に立たされた北朝鮮ですが、同じく社会主義体制をとる中国軍が参戦し、再び北朝鮮軍は南進します。以降、38度線付近で戦局は一進一退し、1953年に休戦協定が結ばれて戦闘は休止しました。その会談の場所となったのがここ板門店です。

3. 板門店内の施設

■ 臨津閣駅

下の資料1は、1902年から1945年まで、北朝鮮から韓国までを結んでいた京義鉄道の臨津閣（イムジンガッ）駅の跡地の写真です。2000年の南北首脳会談で再連結の話が持ち上がりましたが、2006年に北朝鮮側の突然の通告により工事は中止、現在は線路と鉄橋のみが残されています。臨津閣の「臨津」とは国境を流れるイムジン河のことで、日本でも1960年代に同名の歌が流行し、その歌詞の内容から放送禁止となったことがあります。駅周辺に張り巡らされた有刺鉄線には、離散家族の再会を祈る様々な色の布に書かれたメッセージがたくさん貼り付けられていました（資料2）。また、資料3の機関車は国境周辺の非武装中立地帯に取り残されたもので、朝鮮戦争中に攻撃を受け、ひどく損壊しています。



資料2：寄せ書きのような形でメッセージが結んである ▶

◀ 資料1：フェンスの向こうには開通予定だった鉄橋が見える



▲ 資料3：損壊の度合いが酷く、一見機関車には見えない

■ 軍事停戦会議場

韓国と北朝鮮の話題が出る際、必ずと言っていいほど見かけるのがこの建物の画像ではないでしょうか（次頁の資料4）。ここは、1953年の休戦協定で会議場として使用された場所です。建物内を守る兵士は1ミリたりとも動かずに厳重警備をしており、ツアー客は一

緒に写真を撮るなどしていましたが（資料 5）。会議場中央にある机のマイクの線がちょうど国境となっており、ツアー客が実際に北朝鮮国土に足を踏み入れることのできる唯一の場所です。



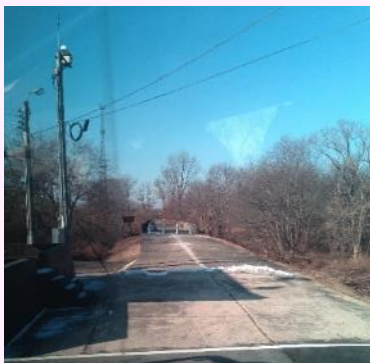
▲資料 4：奥の建物は北朝鮮の板門閣



▲資料 5：マイクの線を境に左手が北朝鮮

■非武装地帯

休戦ラインから南北それぞれ 2km（計 4km の幅）にわたり、両軍の管轄下に置かれていない非武装地帯（DMZ）が広がっています。同地帯の中には北朝鮮と韓国の宣伝村があり、1980 年代には国旗掲揚塔の高さをめぐり争いが繰り広げられました。韓国の宣伝村の「自由の村」には農業を営む民間人の居住が確認されていますが、北朝鮮の宣伝村は無人のプロパガンダであるとされています。これら 2 つの村以外の地域は一面地雷原となっています。



▲資料 6：奥が北朝鮮

板門店に近い沙川（サチョン）河には、国境線の通る「帰らざる橋」と名付けられた橋があり、兩岸には北と南それぞれが監視小屋を設置しています（資料 6）。1976 年の 8 月 18 日に、この橋の南岸付近で、「ポプラ事件」は起こりました。ポプラ事件とは、この場所にあったポプラの木を国連軍が剪定しようとしたところ、北朝鮮軍が激高し、その場にいたアメリカ人兵士 2 名を斧で殺害した事件です（資料 7）。大規模な武力衝突も懸念されましたが、最終的には当時の北朝鮮の金日成国家主席が謝罪し、戦争再開は避けられました。その後は北朝鮮の提案で DMZ 内にも国境が定められ、国境を越えた通行は禁じられています。



◀資料 7：ポプラ事件の様子は映画用カメラで記録された

4. 板門店を訪問してみても

板門店に行く — 訪韓前の私は、そのことをちょっとしたスリリングな体験をしに行くという程度にしか思っていませんでした。小さいころから、北朝鮮と言うと独裁国家で、何をしてもかすかわからない怖い国と信じて過ごしてきたからです。今回の訪問で、私は自身の国際社会に対する認識の甘さを思い知りました。北朝鮮と韓国の間の問題をどこか他人事のように考えてきた証拠なのです。

現在、日本は島国という立地条件も相まって、国土に人為的な国境線が引かれている地域はないといえます。また、日本の歴史上、第三国によって民族が分断されたことはかつてありません。このような日本人の持つ特徴的なバックグラウンドから、韓国と北朝鮮の関係は私の眼には珍しく映っていたのかもしれませんが。しかし、世界において民族分断や人為的な国境線の引かれた例は多く見られます。アフリカ大陸の国境線は列強諸国がお互いの利益のために引いたものがほとんどですし、ドイツも第二次世界大戦後、長く西ドイツと東ドイツに分断されていた歴史を持ちます。

全く同じ背景を持つ国は世界に一つもありません。他国の抱える問題は、他人事と切り捨ててしまっただけでそれまでなのです。しかし、世界中の人々皆がお互いの問題を共有し、協力して解決しようとする努力を怠ってしまっただけでは、現代の国際問題の解決への道のりはさらに遠くなってしまうことでしょう。

一見何もかわりがないように見えても、国と国との距離が極端に狭まった現代において、無関係な問題はほとんど存在しないのです。このことを念頭に置いて、これからは国際問題を視る態度を改めていこうと思います。(小島 えりか)

〈参考 URL〉

世界史の窓 <http://www.y-history.net/appendix/wh1403-065.html>

朝鮮の政治に関するレポート http://www.efeel.to/~itoshun/study/report/coria_history.html

朝鮮戦争の経緯 http://www.dce.osaka-sandai.ac.jp/~funtak/kougi/gendai_note/Sensokei.htm

3分でわかる朝鮮戦争 <http://is-factory.com/post-10775/>

北朝鮮旅行記 <http://www.asahi-net.or.jp/~HC7Y-SNU/sanoo/Travel55/Travel55a.html>

臨津江駅 <http://www.geocities.jp/tabinosyasoukara/dmz2.html> など



ツアーから帰国して10日後の2016年1月9日(土)に、セッション杉並(東京都杉並区)にて「青少年ワークショップ」を開催しました。同ワークショップは主に杉並区在住・在学の中学生を対象として、ツアー参加者による報告を聞きながら、韓国の歴史と文化に関する理解を深め、将来の日韓友好について考えてもらうイベントです。当日は中学生20名のほか、高校・大学生11名、外国人3名、大人6名の計40名が来場しました。

1. ワークショップの内容

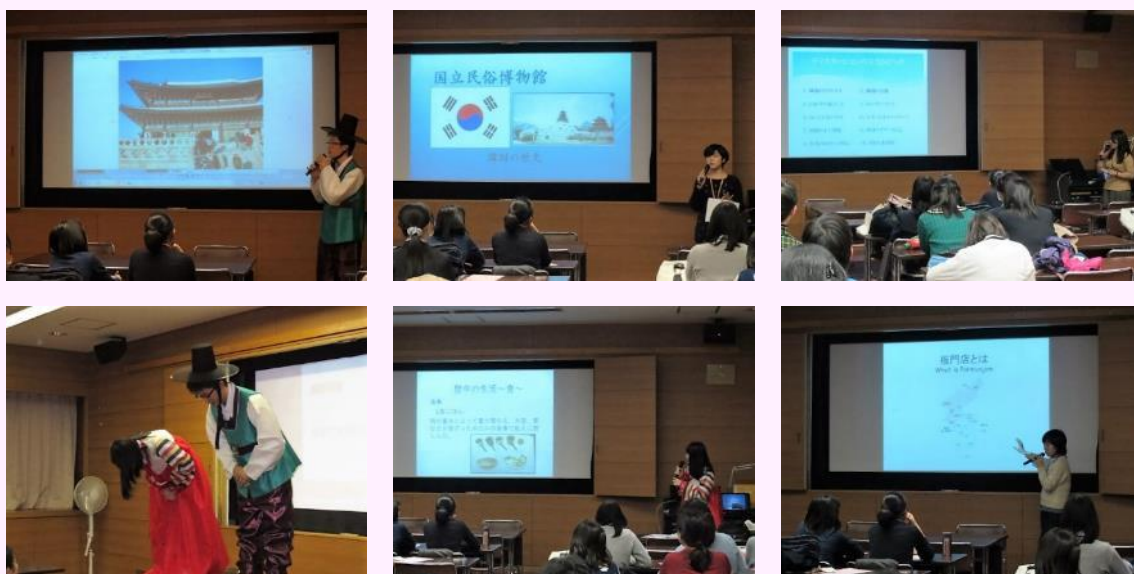
右表にあるとおり、まず韓国スタディツアーの目的と概要について述べ、前提となる知識として、韓国の基本情報(地理や言語、宗教など)を説明しました。そして韓国の国技に関するミニクイズを行いました。

次に、ツアー参加者が1人ずつ各訪問先を紹介しました。景福宮では、建物の写真を見せながら、その見どころと史跡としての価値を説明しました。国立民俗博物館では、韓国の歴史について、とくに近代以降の日韓外交史に焦点を当てて説明しました。韓国青年とのディスカッションでは、韓国の社会的慣習から現在の流行まで、ディスカッションで扱われたさまざまなトピックを紹介しながら、韓国人の価値観、そして日本文化との違いについて発見したことを述べました。

報告内容	報告者
韓国スタディツアーの目的と概要	岩野
韓国の基本情報	
ミニクイズ①「韓国の国技」	
景福宮	河合
国立民俗博物館	福田
韓国青年とのディスカッション	今井
ミニクイズ②「韓国式お辞儀」	岩野
西大門刑務所歴史館	八尾
朝鮮戦争と板門店	小島
まとめ	岩野

2 青少年ワークショップ

韓国式お辞儀に関するミニクイズを挟んだのち、西大門刑務所歴史館では、同刑務所が建てられた歴史的背景と当時の内部の様子を説明しました。朝鮮戦争と板門店では、朝鮮戦争の経緯と現状、板門店一帯の様子、そして南北朝鮮の分断がもたらした悲劇について説明しました。最後にまとめとして、韓国の歴史と文化をよりよく学ぶためには、実際に韓国を訪れたり韓国人から話を聞いたりして、自分の目や耳で直接見聞きすることが最良の方法であると伝えました。また、そのようにして学んだことを土台にして、将来の日韓関係について自分なりに考えていくことが必要であると伝え、ワークショップの結びとしました。



2. 来場者の感想

中学生たちは報告内容の中で、とくに日韓関係の歴史と南北朝鮮の緊張関係について興味を持ったようでした。おそらく前者に関しては、韓国（朝鮮）を侵略した「加害者」としての日本という、新たな視点を持つことができたからではないでしょうか。後者に関しては、普段北朝鮮の情報に接することが少ないため、韓国と北朝鮮の歴史的関係や国境付近の実際の状況について、純粋に「知りたい」という気持ちが引き出されたのだと思います。以下では、中学生を含めた来場者の主な感想や意見を紹介します。

■ 日韓関係の歴史について

- ・「被害者としての日本ではなく、加害者としての日本についてもっと考えるべきだ」という（報告者の）言葉が印象に残りました。
- ・韓国にとって私たちは加害者でもあり、……（中略）韓国人の気持ちを考え、少しでも自分たちが（加害者であることを）意識しなければいけないと思いました。

- ・日本と韓国の歴史を知ることができました。私としては、（西大門刑務所歴史館の一部の展示に）日本語表記がなかったのは、国立民俗博物館と同じように、日本人が来たときに不快な気持ちにさせないため、という理由があるのではないかなと思いました。
- ・（西大門刑務所歴史館で韓国人の青年グループと親交を深めたという話について）日本人が韓国人に対してひどいことをしてしまった証のような場所でも、日本人に対して優しく接してくれていて驚きました。……（中略）韓国人は反日が強く、（人数も）多いと思いましたが、そこまででもないことがわかりました。
- ・昔、日本は韓国に対してとても醜いことをしていたけれど、それにも関わらず、現在は普通に私たちと（ディスカッションなどを通じて）話してくれたことがびっくりしました。私たちも他人事と思わずに、良縁でいられるよう努力するのが大切だと思いました。
- ・テレビで流れている韓国と日本の決して良くはない関係のニュース。それを韓国の若い人たちはそこまで「悪」とは捉えていなかったことに感動しました。お隣の国同士なので、仲の良い交流はもちろん、過去にあった悲しい出来事についても一緒に考えていきたいと思いました。

■韓国と北朝鮮の関係について

- ・北朝鮮と韓国の国交断絶の経緯や、それに対する韓国人の考え方を知ることができて、勉強になりました。
- ・（南北分断の歴史について） Very interesting. It's incredible to think how many years they've had it.
- ・北朝鮮の思う韓国、韓国の思う北朝鮮について、もっと知りたいと思いました。
- ・韓国と北朝鮮の間にある悲しい歴史について、詳しく知ることができました。戦争はいずれにせよ、悲しいものだと思いました。

■全体を通じて

- ・身近なことでも、韓国と共通する文化や異なる文化があるということがわかり、とても面白かったです。
- ・ニュースや新聞から、もっと韓国について考えたいと思いました。
- ・韓国に実際に行き、話し、聞き、体験するのが貴重なことをつくづく感じました。
- ・素晴らしい発表でした。各々わかりやすいですし、各々の意見がよくわかりました。人間はどんどん若い世代が伸びてくる。歴史を理解しようとする姿勢も、伝えようとする気持ちも強くて、世界平和を本気で考えられる世代だと思いました。

（岩野 智）

韓国スタディツアーに参加して

今井 美佳

今までこのような真面目なものを避けてきたので、変な日本語かもしれませんが、ご了承下さい。私は、今回初めて韓国を訪問しました。私は韓国のアイドルや俳優が好きなので、そんな韓国に行けると思い観光気分で申し込みました。また、私は韓国に限らず、世界中の人と仲良くなりたいという思いもありました。しかし、このスタディツアーに参加して韓国に対しての考え方が変わりました。

まず、飛行機で仁川空港に2時間で着いたとき、近いと感じました。私の家から学校まで往復するだけで2時間かかります。そんな距離に全く違う文化の国があるということが改めて分かりました。そして寒かったです。今年は暖かいほうだと言われても、東京に住んでいるととてつもなく寒く感じました。初日の夜、明洞で美味しい参鶏湯とビビンバを食べました。韓国料理が好きな私は本場のビビンバを食べられてとても嬉しかったです。

冒頭にも言いましたが、世界中の人と仲良くなりたいと思っています。その点で一番楽しみにしていたのが、現地の青年とのディスカッションでした。韓国のバラエティー番組をいくつか見ていたので、韓国の生活というものを少しは知っていたつもりでしたが、まだまだ知らないことだらけでした。一番驚いたのは、女子高の体育の授業でバスケットボールやバレーボールをやらないということでした。日本では考えられません。そして、ディスカッションの後の昼食の時に2人の韓国人の近くに座り、たくさん話しました。韓国人に日本語はどう聞こえているのかということを知ると、柔らかいような気がすると言われました。韓国語にはパッチムと呼ばれる母音の後につく子音があります。日本語にはそのパッチムがありません。だからかな…と思いました。ディスカッションの後、カン・ミンジさんと合流して景福宮、仁寺洞に行きました。ずっと一緒にいて仲良くなることができました。ホテルに帰ってから、そして日本に帰ってからもメールをしました。この関係がずっと続いて、最後に交わした「また会おうね」という言葉を嘘にしないようにしていきたいです。最後の夜に会ったホン・スジさん（昨年の韓国側のディスカッション参加者）とも同じく仲良くしたいと思っていました。ソウル駅の外で待ち合わせのため彼女を待っていたのはそのためです。ロツテマートで買い物をした時もいろいろ教えてくれました。スジさんとはLineで繋がりが、韓国について分からないことをたくさん聞いています。

今回のスタディツアーは、私に良いことしか与えていません。韓国と北朝鮮の関係や過去の日本がしたことといった悲しい歴史も学べました。板門店に行って北朝鮮に偏見を持っていることに気がつきました。今の南北関係の現状について知り、自分の目で見るのが大切なのだとわかりました。また、西大門刑務所で会った高校生たちと短い時間でしたが、話を聞くことができました。私たち若者がお互いを理解し仲良くすることが大切だとわかりました。これが、平和な世界を作るのに必要なことだと思います。韓国のアイドルも良いですが、韓国という国全体を知っていきたいです。

韓国スタディツアーの感想

プラント 蛍

私は今回の韓国スタディツアーで、とてもたくさんのことを学びました。とくに、私の中で印象に残っている場所は西大門刑務所です。西大門刑務所は大まかに説明すると、日本に対して反対している韓国人を捕まえて収容した場所です。そこには私にはとても考えられないものがありました。見た目はドイツにあるアウシュビッツに少し似ている気がしました。レンガ造りの高い塀に囲まれた刑務所でした。建物の中に入るとそこは博物館になっていて、少しヒンヤリとしていました。壁にはここで何があったのかを細かく説明するボードが取り付けてあり、それぞれ韓国語と英語、そして日本語でも訳してありました。奥に進むにつれてどんどん寒くなり体の芯が震えました。少し歩くと明るい部屋に出ました。そこには刑務所に収容されていた何千人もの人の写真が壁一面に貼ってあり、背筋がゾワリとして全てが私を睨んでいるように感じました。すごい量の写真でした。

日本はいったい、どのくらいの人を尊い命を奪ってしまったのでしょうか。同じ部屋には私たちと同じ年くらいの韓国人グループがいて、私はとても怖くて息ができませんでした。しかし、何よりも怖かったのが拷問部屋です。見本のはずなのですが、血などをリアルに残していたり、おもわず目を覆いたくなるような残酷な刑もありました。体を椅子に縛り付け、爪を一枚一枚剥いたり、逆さに吊るして唐辛子水を顔にかけたり、とにかくとても残酷でした。西大門刑務所に行く前に「心まで寒くなるよ」と言われたのですが、そのとき私はそれほど気にしませんでした。実際に訪れてみて本当に心が凍るようでした。館内には拷問を体験できる場所があり、私も体験してみたのですが、逆三角形のような形をした細長い箱に扉がついていて、その扉には小さな窓がついていたのですが、私は入ることはできませんでした。どうしても扉を閉めることができませんでした。ただ入って扉を閉める。それだけなのに、とても怖くて閉めることができませんでした。当時の人はどんな気持ちだったのでしょうか。本当に辛くて怖かったと思います。日本がとても恐ろしくて残酷なことをしていたのは事実です。しかし日本だけが悪いわけではないと思います。

確かにとても残酷なことをしていました。しかしこれは戦争です。戦争とはそういうものです。戦争はとても残酷なものです。たくさん命が亡くなります。おそらくこの国も同じことをしているでしょう。他の国もしているからいいという訳ではありませんが、戦争とはそういうものだと思います。

韓国にはやはりまだ日本に対して好印象を持っていない人もたくさんいます。しかし、多くの韓国の高校生と話し、韓国から見た日本など、これまでとは違う視点で日本を見ることができました。韓国で日本を嫌っている人はごく一部だと説明され、私たち日本人のことは大好きだと言っていました。私はその言葉を聞き、とても嬉しく感じました。韓国では中島美嘉さんや、私も大好きな YUI さんが人気だとも言っていました。さらに、やはりマンガやアニメも人気だそうです。私は韓国を訪れる前、ニュースなどでよく反日運動を見かけていたため、韓国人はみんな日本が嫌いなのかと思っていました。しかし実際に行ってみないと分からないことがたくさんあるのだなと思いました。実際に行き、見て、聞いて、感じて、学ぶことが本当にたくさんありました。

今回このようなチャンスをくださり、本当に感謝しています。ありがとうございました。とても貴重な体験ができました。このように間近で現地の人々の賛成・反対の意見が聞けるとは思ってもいませんでした。今回学んだことを活かし、韓国が「近くて遠い国」ではなく「近くて近い国」になる日が早く訪れることを願い、これからもユネスコ青年部としてできることをしたいと強く感じました。短い間でしたが、ありがとうございました。

韓国スタディツアー感想

八尾 成美

日本を出発した日のことを振り返ってみると、「スタディツアーだからいろいろ考えなければいけないんだろうな」という受け身の姿勢でいました。しかし、今振り返ってみると、この4日間私は自然と様々な問題について考えていたなと思います。

私は、今回のツアーで日本と韓国の関係について両方の視点から学べたらいいと思い参加しました。連日のように日韓関係に関する報道がなされている中で、相手の国のことを知らずに意見は持てないと思い、私の中のテーマとして持っていました。そして、2015年を通じ韓国と日本間の問題であった慰安婦問題が、解決したと言われている日に韓国に滞在することができたことは、貴重な体験だったと思います。1945年に終わった戦争の代償は70年経った今でも残っている、ということに改めて感じることができました。私の中では教科書に載っている歴史上のことになってしまっていた戦争と、改めて向き合うことができたことは大きな成果だと思います。また、板門店ツアーや、韓国の高校生と話す中で、日韓関係のみならず、韓国と北朝鮮の関係についても目を向けることができました。まだ終戦ではなく休戦中という点にも二国間の溝が感じられ、戦争で生まれた傷によって韓国は様々な外交問題を背負っているということを実感しました。韓国ユネスコにてディスカッションをしたときに、北朝鮮と韓国の話題になりました。日本人は拉致被害者やミサイルなどの問題から北朝鮮に良いイメージを持っている人は少なく、そのような気持ちは世界共通で韓国も同じだと思っていました。しかし、韓国の国民の半分は南北統一を希望しているという事実には驚かされました。

ツアー全体を振り返ってみると韓国ユネスコ訪問や、西大門刑務所で出会った韓国人高校生たちとの交流など、今回のスタディツアーではたくさんの人と出会うことができました。個人旅行では決して訪れることのないようなところにも行くことができ、報道では伝わることの無い真の韓国を感じることもできたと思います。

今、日本と韓国の国交が良いとは決して言えないものの、芸能界や観光客など主に経済の面ではお互い支え合っていると言うことができます。戦争で行ったこと、されたことを忘れてはいけないと主張するのは正しいことですが、そこでされたことを何十年も引きずることは、必ずしも両国の未来に良い影響を与えるわけではありません。戦争で生まれた憎しみを忘れないのではなく、悲しみを忘れないようにしなければならないと感じました。

韓国スタディツアー感想

河合 城太郎

私は今回初めて韓国に行きました。日本と近いとはいえ、やはり外国でした。日本との違いを感じました。

今回韓国に行ってみて、パツと印象に浮かぶ思い出と言えば、それは地下鉄です。私たちは大きな切符のような乗車券を買ったのですが、これが日本の切符とは違い、使い捨てタイプではありませんでした。驚きです。そして、なぜなのか原因はわかりませんが、よく改札機につかえてしまうということがありました。驚きです。切符だけではありません。地下鉄のホームには、なんとすべての駅に非常食などの災害グッズが備えられてありました。この点も日本とは違います。さらには電車の座席もクッションではなく、鉄製のものでした。

その他に、食べ物を挙げることができます。韓国ではいつも辛いものを食べていた気がします。私は辛いものが苦手で、カレーもいつも甘口です。本当につらかったです。韓国人はなぜあのような辛いものを食べることができるのでしょうか。不思議です。しかし、現地で食べたビビンバはおいしかったです。

今回のスタディツアーを通して、私は韓国＝反日国家というイメージが払拭されました。景福宮では日本語のアナウンスが流れており、露店のおばさんも日本語を話していました。何よりも刑務所で出会った同年代の韓国人と普通に日本語で話すことができたからです。ちなみにその人は日本の漫画が好きと言っていました。日本のサブカルチャー文化は海外でも親しまれていることが実感できました。

やはり現地に行って、直接自分の目で確かめないとわからないことだらけです。自分が今までいかにTVの情報を鵜呑みにしていたのかがわかりました。しかし、TVもなぜ韓国の反日派の人たちばかり映すのでしょうか。少し思うところはありますが、だからこそ自分で調べて、さまざまな方向から意見を聞き入れて、考えていくことが重要だと思います。今回韓国に行って、とてもよかったと思います。

…ちなみに現地の店でアイフォンの付属のイヤホンを買ったのですが、純正品ではありませんでした。海外を実感しました。

韓国スタディツアーに参加して

小島 えりか

今回のツアーで、私は韓国について何も知らない自分の存在に気づかされました。

それまでの私の韓国のイメージは、「厄介な隣人」というものでした。日々メディアで報道される反日運動、竹島問題、慰安婦問題などから、日本の一挙手一投足にたびたび文句をつけてくる迷惑な国だと思ってしまっていたことが根底にあるのかもしれませんが。しかしその考えは、「日本人」という一つの視座のみから、しかも自分は当事者ではないという怠惰な意識のもとでしか物事を見られていなかった証拠でした。

その考えに変化が出てきたきっかけは、韓国訪問の少し前の高校の沖縄修学旅行でした。訪問した平和記念公園内の平和の礎と呼ばれる犠牲者の名を刻んだ慰霊碑にある、韓国出身者の名があまりにも少なかったのです。同行した現地のガイドによると、遺族も自分の親戚や家族が日本軍で慰安婦をしていた過去を公表したくないがために、あえて名を載せないという選択をすることが多いのだそうです。慰安婦問題は、今でも韓国の人々の心に暗い影を残していたのです。この問題を過去のことと捉えていた自分に衝撃が走ると同時に、無意識に加害者の立場に立っていたことが恐ろしくなりました。そして帰宅後すぐにこの韓国スタディツアーへの参加を決意しました。

この経験から、私はこの訪問では自分が加害者の国であることを意識して、今までと違う角度から物事を見ることに努めました。同時期に岸田外務大臣が日韓交渉のために訪韓していたこともあり、現地で見ず知らずの人に反日の意を唱えられることもあるだろうと覚悟し、謝罪すべきなのかと考えつつ、韓国に向けて出発しました。

しかし、現地の様子は私の予想と全く違っていました。実際に出会った韓国の人々のほとんどが政治に関心のある様子をあまり示さなかったのです。日本についてどう思うか尋ねても、ただ「安倍首相が好きではない」「日本の政治が嫌だ」と答えるのみで、具体的に日本のどこに、どのような理由で反感を抱くのかを説明してくれる人は一人もいませんでした。連日報道される反日運動の様子とはあまりにもかけ離れていた現実、政治への関心と期待度の低下を感じました。

このことは日本においても共通して言えることです。メディアの提供する編集された情報を自分の都合のいいように受け取って、嫌悪感を抱いたりそのまま自分の考えの中に代入してしまったり。知ったふりをして逆に問題から目を背けようとしていた自分に気が付きました。

私たちの韓国滞在中にちょうど日韓合意が成立し、慰安婦問題は解決にまた一歩近づきました。しかし、本当の意味での問題解決にはもう少し時間がかかりそうです。

国民の間の確執を解消するには、両国民が双方から歩み寄ることが重要です。そのうちの一つの方法に、正しい知識を得ることが挙げられます。正しい知識の獲得には教育が欠かせません。私の場合では、修学旅行という学校教育の一環でそのきっかけを得て、実際に現地へ赴き、新しい視座を持てるようになりました。

国際問題、とくに二国間の問題は教育の現場で敬遠されがちです。訪問した国立民俗博物館では日本統治時代の展示だけきれいに飛ばされていましたし、沖縄の平和祈念資料館でも米国軍に関する展示は最小限に抑えられていました。もちろん、自分たちが全面的に加害者とされている資料は、見ていて気分の良いものではありません。しかし、それでもあえて西大門刑務所のような場所を訪れ、違う視点の存在を意識することが、問題解決につながる教育なのではないでしょうか。

何が真実で何が偽りか見分けるのは非常に困難ですが、この判断力が現代を生きる私たちには必要不可欠なものなのです。そのような中、教育に求められているのは、メディアリテラシーであると考えます。教育現場に複数の新聞社の新聞を導入し、生徒に比較させる。公平な目をもった教員を育成する。方法はたくさんあると思います。

しかし、教育が客体的に知識を吸収するだけの作業で終わってしまえば、本来の意義は消失してしまいます。教育を受けたうえで、自分に今できることが何か考えて、行動することが大切なのです。

今回のツアーは、私に教育の次の段階へのステップを踏ませてくれました。今の私にできることは、もっと様々な立場からの情報を集め、自分だけの意見を構築することです。このことに気づかせてくださった岩野さん、板倉先生、一緒に行ったみんな、韓国の現地の学生さんなど、このツアーの関係者の方々全員に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

韓国スタディツアー感想

福田 真子

私は、今回のスタディツアーで初めて韓国を訪れました。もともと、留学先のニュージーランドで韓国人留学生から韓国文化のことを多く学んだことから興味を持っており、いつかはソウルを観光したいと考えていました。しかし、連日報道される慰安婦問題や韓国の反日の姿勢などを知るうちに、観光としてではなく、もっと本質的な「韓国」を知りたいと思うようになりました。韓国人はどのように歴史を認識しているのか、日本はどのように見られているのかなど、日本との関係を学びたいと思い参加を決めました。

韓国に行く前の私は、韓国を完全に「別の国」と捉えていたように思います。考えも文化も価値観も、全く違うからこそ反日家が多いものだと思っていました。しかし、国立民俗博物館を訪れたり、韓国人高校生とディスカッションするうちに、私たちの間にはあまり差が無いように感じられました。文化や言語はもちろん、店で韓国語が分からず困った私を助けてくれる思いやりの精神など、韓国人には日本人と似ている点が多く見受けられました。

ではなぜ韓国と日本はこんなにも分かり合えないのでしょうか。それは、すぐにはっきりとしました。西大門刑務所で見た、日本が韓国に対して行ってきたむごい処刑の数々。無念の思いで命を絶たれた韓国人のことを考えるだけで、非常に心苦しく、申し訳なさや悲しさで胸がいっぱいになりました。この事実を知る韓国人が、反日の感情を持つのも当たり前のようにすら思えました。

また、板門店での学びも印象的でした。同じ言語を話す同じ民族が二つに分断されることの悲しさ、そして未だ戦争の脅威と隣り合わせでの生活を強いられている韓国人たちの現状を実感しました。板門店を訪れる前は、そこは韓国と北朝鮮だけの問題だと思っていました。しかし、冷戦というバックグラウンドがあったこと、そして第二次世界大戦時に占領した日本の存在など、多面的に歴史を見ていくうちに、日本にも南北分断の責任があると思いました。そして、他人事で終わらせず、日本人にはこの問題に関わっていく責任があるように思います。

隣国である韓国。しかし、どこかで「私たちとは別」と考えていた韓国。実際に行ってみると、そこには日本の爪痕が多く残されていました。加害者である日本として歴史を別の角度から学べたことは、今回のツアーでの最大の収穫でした。いま、韓国の若者の中には日本に良い感情を持っている人が多いといえます。慰安婦問題も合意し、両国は歩み寄っているようにも見えます。しかし、私たちはただ関係改善を喜ぶだけではいけません。日本が韓国を治めていたという歴史を正しく学び、北朝鮮との問題にも当事者意識を持って考えていく、それこそが私たちがすべきことなのではないでしょうか。未来を担う若者として、これからも韓国について学び続けたいと思います。

予期せぬ出来事 in Seoul

板倉 徳枝

今回でこのスタディツアーへの参加は何回目かはっきりしませんが、ソウルを訪れるのは6、7回目ぐらいでしょうか。広島スタディツアーと同じように、その時々の世界情勢の違いから経験することは同じ場所を訪れても様々です。私にとって今回のツアーは今までの中で最もエキサイティングなものでした。日韓の友好関係が良好ではない中、私たちがソウル滞在中に岸田外務大臣が交渉のために訪れました。その日の夕方、韓国人学生3人を含む私達11人は従軍慰安婦像が設置されている日本大使館前を通りました。予想に反してそこには市民は一人もおらず、いくつかのTVカメラがあるだけでした。TV局は私たちが日本人であるということを確認したのでしょうか、その夜と翌朝のSBSのニュースには岸田外務大臣と合わせて、従軍慰安婦像の後ろを歩く私たちが何度も放映されました。

また、日本占領時代に政治犯収容所として使われていた西大門刑務所でも予期せぬ出来事が起きました。ここを訪れる度に多くの若い見学者たちに会います。私はここで間違いなく日本に対する憎しみ教育がおこなわれていると思ってきました。そして今回は40、50人の韓国人高校生の見学者たちと一緒にになりました。ユネスコの高校生にとってはとてもショックなことでした。しかし、お土産屋さんでその韓国人高校生と話をする機会を持てたとき、全ては変わりました。こわばっていた顔は笑顔になり、このような悲しい歴史の勉強をした後でも、若者たちは笑顔で話をすることができました。話し合うことの大切さ、青年間の交流の大切さを強く感じた一瞬でした。うれしい驚きです。これこそ未来志向の交流だと確信しました。

他にも予期せぬことはたくさんありました。参加した高校生はここでなくては学べないこと、多くのことを経験することができました。10周年を前にこのツアーを長年にわたって企画、運営してくれてくれたガンちゃん（岩野君）に感謝します。ガンちゃんのおかげで多くの青年部員が、このような良い学びと経験をすることができました。ガンちゃん、ありがとうございます。

国と国の問題を解決するほどの力は私たちにはありません。しかし、草の根と言われる運動の一環として1ミリでも先に進めることができたならば意味があります。まさに杉ユの若者たちはそれを今回実践してくれました。みんな“Good Job!”そして、ガンちゃん“Thank you for everything.” みんな、これからも未来志向で前に進もうね。

2 つの架け橋

岩野 智

韓国スタディツアーの立ち上げから 10 年が経ちました。これまで企画担当者としてほぼ毎年ツアーの実施に携わっています。今回のツアーは第 1 回目（2006 年）の参加者数に並ぶ、過去最高の 8 名となりました。うち 6 名は青年部であり、しかも全員が高校 1-2 年生という若いメンバーでした。若い年齢のときに異文化に触れることが、その人の内面的な成長にどれほど効果があるか、私たちはよく理解しているものと思います。その点で 6 名もの高校生メンバーがこのツアーに参加してくれたことは、募集する側として素直に嬉しく感じましたし、“企画者” 冥利に尽きると思いました。

今回、多くの高校生の参加があったことで、私は韓国スタディツアーの意義を再確認することができました。それは本ツアーが日本と韓国の国同士をつなぐという「国家間の架け橋」であるとともに、日韓友好にむけた取り組みを、世代を超えて続けていくという「世代間の架け橋」でもあるということです。日本と韓国の間には「歴史問題」があり、それは一朝一夕で解決できる問題ではありません。そこでユネスコとして、文化交流という面から互いに理解を深めていくことで、問題解決を図っていこうとしています。政府間の交渉を通じて合意（妥協）を形成するよりも一見遠回りに見えますが、両国民が心から和解するためには国民同士の密接な交流が必要であり、実はそれが問題解決の近道なのではないでしょうか。

この文化交流は時間のかかる非常に地道な作業です。そうであるからこそ、何世代にもわたる持続的な取り組みが必要になるのです。韓国スタディツアーはディスカッションを通じて韓国人と直接交流する機会を設けています。しかしそれだけではなく、参加した日本人が韓国の本当の姿を目の当たりしてイメージを変え、それを周囲の人々に伝えていく機会も設けています。ツアー後に国内で行った青少年ワークショップでは、青年部メンバーが韓国で学んだことを自分の言葉で丁寧に説明していました。それを聞いた中学生たちも韓国に対する認識を改めていたようでした。このように韓国スタディツアーでの学びが、より若い世代に受け継がれていっているのです。ツアー参加者が日韓の交流を自ら行い、同時に「架け橋」となる人材も育てていく。これが本ツアーの意義であることを強く感じました。

最後に、溢れんばかりの好奇心で韓国のことを熱心に学んでくれた 6 名の青年部メンバーと、彼ら／彼女らの好奇心を巧みに引き出していただいた板倉理事に心から感謝申し上げます。また、韓国で出会った青年たち、1 年ぶりに再会したカン・ミンジさんとホン・スジさん、そして毎年お世話になっている韓国ユネスコ協会連盟の方々にもお礼申し上げます。多くの方の思いが集まって、日韓の「架け橋」が強くなっていくのだと思います。

写真 ～韓国での出会い～



▲ディスカッションに参加してくれた、とても礼儀正しいソン・ヘウォンさん（奥の左から2人目）



▲ディスカッション後、景福宮に同行してくれたカン・ミンジさん（右から2人目）と、ハン・ユジンさん（一番右）



▲景福宮にて、通りすがりの韓国人カップルに声をかけて記念撮影



▲西大門刑務所歴史館で韓国人の青年グループに遭遇して緊張



▲青年グループの1人に思い切って話してみると、何と日本語が通じた



▲お互いに日韓の平和を願っていることがわかり、一緒に笑顔で記念撮影



▲昨年のディスカッションに参加してくれたホン・スジさん（左）と、当協会の小林穂菜美さん（右）が3日目に合流



▲ソウル駅前のソウルスクエアで、人目を気にせず、みんなで記念撮影



▲ツアー最後の夜に、明洞の街に消えていく青年たち。ソウルでの4日間を満喫しました

あとがき

本報告書を終えるにあたり、9回目となる本ツアーがこれで無事に終了したことを、しみじみと実感しています。今回のツアーは板倉理事も感想で述べていましたが、現地での出会いがとても多い、参加者にとって非常に恵まれたツアーになりました。ディスカッションに参加してくれた2名の韓国人高校生や、西大門刑務所歴史館で意見交換をすることができた青年グループは、現地で知り合った貴重な韓国人であり、しかも非常に親日的でした。さらに、当協会の「ユネスコ教室」に参加経験のあるカン・ミンジさんや、昨年のディスカッションで友人となったホン・スジさんも、私たちがソウルを訪れるということで急遽駆けつけてくれました。さまざまな韓国人との出会いの中で、ツアーに参加した青年たちは大いに刺激を受けたものと思います。次は青年たち自身が、その刺激を周囲の日本人に与えていくこととなります。学んで、伝えること。その繰り返しによって、日韓友好の礎が少しずつ築かれていくものと期待しています。

もう1つ、今回のツアーを特徴づける出来事を挙げるとすれば、それはツアー2日目に行われた、いわゆる「慰安婦問題」をめぐる日韓外相会談です。一般論としては、ユネスコはあくまで文化面での交流を目的としており、政治的問題については一定の距離を置かなければなりません。しかし、ツアー参加者の多くが感想などで言及しているように、「慰安婦問題」を含む日韓の「歴史問題」が相互の文化交流を妨げているのは事実であり、もはや避けて通ることはできない問題になっています。日本人であれ、韓国人であれ、その他の外国人であれ、誰もがその真相を知りたいと思い、そして当事者間の完全な和解を願っているのです。問題解決にむけてユネスコとして何ができるのか、明確な答えはまだ出ていませんが、少なくとも私たち日本人は、韓国の歴史と文化を、韓国人の目線から見るができるように努力していかなければならないと思っています。まずは相手を理解すること。小さな一歩ですが、他の何よりも着実な一歩だと思っています。

最後に、貴重な助成金を提供してくださった公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の方々と、ディスカッションを含む交流プログラムをセッティングしてくださった韓国ユネスコ協会連盟の方々に心よりお礼を申し上げます。また、現地で楽しい交流をさせていただいた韓国青年の方々にも深く感謝いたします。今後も皆様と協力して、日韓交流とユネスコ活動をさらに推進していきたいと思っております。

岩野 智

第9回韓国スタディツアー報告書
2015

発行日 2016年2月9日

発行 杉並ユネスコ協会

URL <http://suginami-unesco.org/>



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



杉並ユネスコ協会